



ぼらんていあ川口

社会福祉法人 川口市社会福祉協議会
かわぐちボランティアセンター
編集：ぼらんていあ川口編集員
〒332-0015
川口市川口1丁目1番1号キューボ・ラ本館棟M4階
かわぐち市民パートナーズステーション内
TEL：048-227-7640 FAX：048-227-7641
<http://www.kwgc-borasen.jp/>

ボランティア体験講座開催

対象	ボランティア活動に関心があり、今後、活動する意欲があるかた
日時	令和4年11月11日（金） 14：00～16：00
会場	川口市立青木会館 3階 会議室A・B・C
内容	(1) ボランティアの心構え (2) 各ブースの紹介 (3) 興味ある分野ブースで内容説明 (ブース内の各団体と体験先、日時を調整する) ・点訳ボランティア ・住民参加型福祉サービス協力員 ・情報誌「ぼらんていあ川口」編集ボランティア ・居場所づくりボランティア ・地域包括支援センターのボランティア
定員	50名
申込先	かわぐちボランティアセンター TEL：048-227-7640

青少年ボランティア部 部員募集

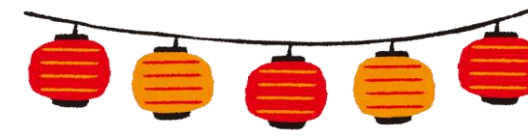
※市内在住・在学・在勤の中学生以上から概ね25歳までのかた
青少年ボランティア部の部員でサロン活動や依頼のあったイベント協力を行います。
また、部員のメンバーでボランティア企画を考えます。
登録制になっておりますので、ぜひ、登録してください！

<サロン活動について>

日程	サロン活動は、毎月第2土曜日
時間	14：00～16：00 ※内容によって日時変更あり
定員	10名（先着順）
内容	古切手の整理やシール貼り など
活動場所	かわぐち市民パートナーズステーション（会議室・サロン）
問い合わせ	かわぐちボランティアセンター 048-227-7640 火曜日～土曜日 9：00～17：45 ※新型コロナウイルス感染状況により、中止となる可能性があります。



たたら祭りのステージで発表しました



令和4年8月27・28日に3年ぶりに「たたら祭り」が開催されました。27日のバザールステージにボランティアセンターに登録のある2団体が活動の成果を披露しました！今回は参加した2団体をご紹介します。



団体名 「サウンド・フォー」

当日は、唱歌や夏の歌などを幅広い年齢層のかたに向けて、30分間演奏しました。会場では手拍子をしながら、歌を口ずさむかたもいました。

発表した感想

- みんなの前で演奏ができて良かったです。
- 大きいステージに立つことができ良かったです。また来年もステージに立ちたいです。

具体的な活動について

- A 練習は毎週水曜日、キュポ・ラ本館 M4 階 13:00~16:30。コロナ前は、月10回程度介護施設で懐メロや童謡を演奏していました。現在の会員は女性6名、男性3名で活動しています。

団体発足、立ち上げの経緯について

- A 2008年9月に団体発足。介護施設など福祉施設にて演奏のボランティアを始めたくて、立ち上げました。複音ハーモニカの他、コードハーモニカ※1、バスハーモニカ※2の演奏にも取り組んでいる楽しいサークルです。

活動をしていて良かったことやコロナ禍で工夫していること

- A 皆さまに楽しんでもらい、歌ってもらえることが活動していて嬉しいです。コロナ禍での演奏は、細心の注意を払って、フェイスガードを着用して、演奏しています。

今後の活動希望や想いについて

- A コロナが終息したら、福祉施設などに行く予定です。ハーモニカは肺呼吸にも大変良いとされています。楽器で吸って音が出るのはハーモニカだけです。練習でもみんな楽しく活動しているので、興味があるかたはぜひ見学に来てね！



▲童謡の演奏

- ※1 コードハーモニカ
和音を奏でるハーモニカ
- ※2 バスハーモニカ
低音域を奏でるハーモニカ



▲歌謡曲の演奏

活動に興味があるかた、参加したいかたはご連絡ください！
サウンド・フォー 担当：佐久間 TEL：080-3174-6810

団体名 「川口手話サークル友の会」

当日は、会場みなさんに即興で手話を教え、一緒に手話コーラスを行いました。

発表した感想

- 緊張しましたが、青空の下で楽しくできました。
- たたら祭りとボランティア見本市はサークルの恒例行事。手話コーラスが楽しかったです。
- 4年ぶりの手話コーラス、いい汗かきました。

具体的な活動について

- A 聞こえない人の生活を良くするという目的のため、コミュニケーションの一つである手話を聞こえないかたから学んでいます。2017年6月には、私たちと川口市聴力障害者協会の運動により、「川口市手話言語条例」が制定されました。それにより、手話を市民の皆さまにも広めるという活動もさらに力を入れています。現在会員は70名で活動しています。

団体発足、立ち上げの経緯について

- A 1973年に発足してから50年になりました。川口市主催の手話講習会の参加者が聞こえないかたがたと交流しながら手話を学びたいとの思いで、サークルを設立しました。現在でも聞こえない人が常にサークルに参加し、生きた手話を楽しく教えてくれています。

活動をしていて良かったことや、コロナ禍で工夫していること

- A 同じ目的を持った仲間と出会えたことに喜びを感じています。コロナ禍では、オンラインで定例会を開催し、毎月発行しているサークル新聞を欠かさず送付し、会員同士の繋がりを大切にしています。

今後の希望や想いについて

- A 聞こえない人たちにとって、川口市が「住みやすいまち第1位」になれるよう目指しています。



▲手話サークルの紹介



▲手話を教えている様子

活動に興味があるかた、参加したいかたはブログからお問い合わせください！
URL：川口手話サークル友の会 blog をクリック

「ボランティア見本市」を開催しました！

10月1日（土）当日は、晴天で4,500名の参加がありました。

小・中学生対象ボランティア体験コーナーでは、盲導犬体験、災害クイズ、共同募金の街頭募金のボランティア体験を行いました。多くの体験者から、体験して良かったとの声をいただきました。



▲盲導犬体験



▲災害クイズの様子



▲社助の呼び込みの様子

短 歌

ふんわりと何かが落ちたと近づけば白鷺一羽浅瀬に遊びぬ
見たとおりのことを短歌にしました。見たとおりの景色ですが、浅瀬に遊んでいる白鷺と水辺が季節柄涼しそうな感じがします。

森田 富美子

彼の友もこの友も逝きてしまいいぬ吾には届かぬ黄泉へのきつぷ
何回も何回もアルバムを見て友をしのんだことと思います。そして届かぬ切符のことを思うのです。

田中 澄子

世の中が厳しくすぎてもさるすべり浴道長く咲いて華やぐ
夏になるとひととき華やかに咲くさるすべり。最近では赤以外でも色がさまざまにみられます。子どもたちに見たさるすべりにふるさとを思い出す人もいます。

笹田 光江

★「青少年ボランティアスクール」を開催しました★

昨年度は、コロナの影響で中止になってしまいましたが、今年度は、7月23日～8月10日で19施設・26団体の協力のもと開催することができました。体験者数386名。皆さん一生懸命体験していました。



▲見沼自然の家周辺の
手入れ作業



▲川口市立科学館
「わくわくワーク」・「どきどきサイエンス」の準備

編集後記

各地でお祭りが中止される中、川口オートレース場で「たたら祭り」が開かれました。

3年ぶりとあって場内は多くの人でうめつくされていました。40年近く在住しながら会場に行ったのは初めてのことです。

「たたら祭り」が夏の風物詩として川口市民に親しまれていることがよくわかりました。

今号では、各種市民団体やボランティア団体のかたがたと一緒にステージを盛り上げた2団体の記事をお読みください。

ほらんていあ川口編集員 Y.D